

ふるさと便り

―「上越タイムス」の記事より―

GACKT 謙信再来（八月）

上杉謙信の遺徳をたたえ、徳富第八十五回「謙信公祭」で、GACKT 謙信が二年ぶりに出陣し武田軍と対峙し勇壮な戦国絵巻を繰り広げた。白馬にまたがり上杉軍を引き連れ、「われに刃向うは神に背く者として腹することなく突き進め！天道に従い、この越後上越より義の戦いに参る。皆の者、いざ出陣じゃ！」と軍を進めた。

ガクトさんの出演効果により、八月二十一日と二十二日の二日間、過去最高の二十四万三百余人の入場人数を記録した。



道路状遺構が出土。米岡下割遺跡（八月）
県埋蔵文化財調査事業団が開発を進めている米岡の下割（しもわり）遺跡で、中世の道路状遺構が出土した。戦国時代の上杉謙信が関東出兵に使った松之山街道の可能性もあるという。下割遺跡は国道三三五号上越三和道路の工事に伴い発掘が行われ、これまで中世の集落や水田が発見されている。中世に上越と魚沼、関東を結んだ道の跡に現代の道路が建設される予定である。



沢さんが高田小町で解説を行った。ピートル・ブリュッゲルは十六世紀のネーデルランド（現在のオランダを中心とする低地地方）でもっとも偉大な画家と言われている。版画の下絵素描を数多く制作し、油彩画に専念、活気ある民衆文化や道徳批判、農民の世界を芸術の観点でとらえた作品で高い評価を得ている。



城ヶ峰砦史跡の記念碑建立（九月）

春日山城本丸と桑取谷を結ぶ桑取道の中ほどにある歴史遺構に記念碑が建立された。桑取道は春日山城から越中方面へ抜ける玄関で、兵糧や新炭などの輸送や兵士の移動に利用された。

森洋子さんブリュッゲルを語る（九月）

上越市出身でブリュッゲル研究の第一人者、森洋子明治大学名誉教授（旧姓有



林道「黒倉線」が全線開通（九月）
 「黒倉線」は新潟・長野の県境にある
 関田山脈の中腹に位置し、板倉区久々野
 と妙高市長沢を結ぶ林道だ。この林道の
 開通により周辺の森林整備と森林の持つ
 公益的機能が一層発揮されると期待され
 ている。



「高田ルネッサンス」が始動（十月）
 高田地区の本町通りで、地域の『文明
 開化』から百年の歴史物語を顕彰する企
 画「高田ルネッサンス」が開かれた。『越
 後高田歴史回廊』、「朝市感謝祭」、「レル
 ヒさんカレー」、「百円商店街」、「上越鍋祭
 り」などの催しが繰り広げられ、歩行者
 天国に多くの市民が参加した。



上越で震度5弱（十月）
 三日前九時一十六分、上越を震源と
 する地震があり、牧区と清里区で震度五
 弱を観測した。区事務所では、電話で要
 援護所帯の安否を確認していた。幸いに
 して大きな被害はなかったようだ。



飯小学校三年連続全国大会へ（十月）
 飯小学校の金管部は朱鷺メッセで行わ
 れた西関東小学校ハンドフェスティバル
 で金賞を取り、三年連続の全国大会出場
 を決めた。



えちこ・くびき野100キロマラソン
 （十月）
 「えちこ・くびき野100キロマラ
 ソン」は百キロと五十キロの両部に
 千五百九十七人が出場し、大島区から安
 塚区の峠など市内五つの難所、海岸線、
 田園地帯を舞台に繰り広げられた。全国
 三十七都道府県から集まった各ランナー
 は治道の声援に励まされてゴールを目指
 した。



城下町高田花ロード（十月）

本町通りは花ロードの実施に合わせて歩行者天国となり、音楽祭、飲食、衣料、雑貨を扱う屋台も繰り出し、多くの参加者は芸術の秋を満喫した。



「おたや」で秋の一日を満喫（十月）

高田別院の報恩講が行われ、境内では地域行事としての「おたや」が行われ、屋台やアトラクションで賑わった。「本町通りまで続いたお店の時代」を取り戻したいと当時を知る人たちが頑張っている。



越後・謙信SAKEまつり（十月）

日本酒十八の酒蔵、ワイン、どぶろく等を含ませ二十四のお酒ブース、八十の食のブースが軒を連ねた大イベントでした。今年はこの行事に合わせて長岡・高田・新井間でSL「越後謙信SAKE祭号」が黒煙を吐きながら走った。



朝市開設100周年（十月）

「朝市開設百周年感謝祭」が大町通りの「四・九の市」で開かれた。本町通りの「越後謙信SAKEまつり」と連動し、常連客に行楽客も加わって活気を見せていた。朝市の食材をふんだんに使った「いも煮汁」は行列のできる人気でした。



旧大町中学校同窓会設立（十月）

旧高田市立大町中学校の同窓会が発足した。卒業生は三千八百人、職員は百五十人を超える。昭和二十二年から三十四年まで現在の大町小学校の所在地にあったが、学校統合により現在の城北中学の前身となった。



SL登場で大興奮 新井駅（十月）

お隣の新井駅周辺でも「元氣いっぱい軽トラック市」やおもしろ自転車体験、キッズダンス発表会、SL越後謙信SAKE祭号などの多くの催しが行われた。SL登場で大興奮に包まれた。



高田北城高校創立百十周年記念式典

(十月)

十月三十日高田北城高校では創立百十周年記念式典を挙行了。大河ドラマ「天地人」の作者坂雅史さんが記念講演を行った。謙信の抱く義の心は「人との信義を大切にし、公や地域のために自分が何できるかを考えて行動すること」と火坂さん。「冬のつらく、苦しいときにもじつと耐え、力を養い、春に大きな花を咲かせる」という「雪国の心」を表現してほしいと大河ドラマのプロディューサーにお願いしたと語った。



上吉野池に今年もハクチョウ600羽

(十一月)

「白鳥を守る保倉の会」によると既に五、六百羽が越冬に来ているという。一番乗りは十月上旬にやってきた。近隣住民の保護活動が実り、昨年は最高の八百五十羽がやって来たので今年も期待している。



上越出身のプロ棋士が開碁を伝授

(十一月)

開碁のプロ棋士佐藤昌晴九段が、上越の開碁愛好家のレベルアップと底辺拡大のため、多面打ちで指導した。佐藤九段は日本棋院東京本院所属、昭和六十一年に九段となり棋士道賞優秀棋士賞をはじめ多くに実績を上げている。指導碁会は今回が三十回目。



妙高市長に入村明さん再選(十一月)

合併後初となる市長選挙で入村明さんが当選した。二期八年の実績と妙高山の恩恵を受ける地域を一体的に発展させる「生命圏域の創造」を前進させるため「市政の継続」を訴えた。



大自然の美 虹(十一月)

妙高市の天然記念物樹齢五百年の大ケヤシにかかると一重の虹がカメラに納まった。



給食にズワイガニ 名立宝田小学校

(十一月)

地元の名立漁業組合のプレゼント。地元で水揚げされたズワイガニのカニ汁が子供たちに振る舞われた。真っ赤な脚が食器から飛び出したカニ汁。子供たちは大喜びだった。



高田高校『第一義館』が完成（十一月）
 平成十七年に始まった校舎改築工事は、昨年の体育館改修をもって竣工。校友会と地元有志を中心とした募金による記念事業セミナーハウス「第一義館」が完成、式典が行われた。研修室、食堂、シャワールームなどが完備された宿泊可能施設で、部活動の合宿や課外活動に利用される。



豪農の館「瀧本邸」公開（十一月）
 頸城区百間町にある豪農の館「瀧本邸」が一般公開された。多くの参観者は、紅葉に染まった本庭園や離れ「懷徳亭」で争（こと）の演奏や茶会を楽しんだ。



新幹線上越駅（仮称）の駅舎（十一月）
 北陸新幹線上越駅（仮称）の駅舎デザインについて、上越市まちなみ検討会議は、「桜と雪」をテーマとしたデザインを村山市長に答申した。



頑張れ、霜鳳 大相撲九州場所（十一月）

新井出身で、高田農業高校で学んだ霜鳳。十一月場所は六勝九敗で負け越した。写真は十四日目、光龍の突き放しを受け、最後までまわしに手が届かず、一気に押し出された。二場所ぶりの負け越しとなった。



小田獄夫コーナー設置 南本町小学校（十一月）

第三回芥川賞を受賞し、高田文化協会を基礎を築いた上越出身の作家、小田獄夫。母校の南本町小学校に紹介コーナーを校内に設置した。人物紹介パネルと兼合山にある文学碑の拓本を掲示。

